

## 令和7年白老町議会総務文教常任委員会会議録

令和7年7月25日（金曜日）

開 会 午後 1時10分

閉 会 午後 2時35分

---

### ○会議に付した事件

所管事務調査

1. 津波避難対策の在り方について
  2. 分科会について
  3. その他
- 

### ○出席委員（6名）

委員長 貳又 聖規 君

副委員長 森山 秀晃 君

委員 長谷川 かおり 君

委員 佐藤 雄大 君

委員 前田 博之 君

委員 広地 紀彰 君

---

### ○欠席委員（なし）

---

### ○説明のため出席した者の職氏名

総務財政部長

鈴木 徳子 君

総務課長

増田 宏仁 君

総務課防災交通室長

高野 基哉 君

---

### ○職務のため出席した事務局職員

事務局長

本間 弘樹 君

一般事務職員

白綾 美紀 君

---

◎開会の宣告

○委員長（貳又聖規君） ただいまより、総務文教常任委員会を開会いたします。

（午後 1時10分）

---

○委員長（貳又聖規君） 本日の調査事項は、津波避難対策の在り方についてであります。

総務財政部総務課防災交通室から説明を頂きます。説明員の方は、一言ずつご挨拶をしていただきたいと思ひます。

○総務財政部長（鈴木徳子君） 総務財政部の所管となっております、鈴木と申します。

本日は、津波避難対策に関して皆様に課題等を共有させていただいて、これより我々の大事な町民をどう守るかを一緒に考えていけたらいいなと思ひます。よろしくお願ひいたします。

○総務課長（増田宏仁君） 7月1日付で総務課長になりました増田でございます。

今回総務文教の所管事務調査ということで、津波避難の在り方について取り上げていただきました。やはり、災害対策というのは町だけで考えるのではなくて、議会の皆さん、町民の皆さんも含め、全体で考えていかないとなかなか難しいところがあるかなというふうに思ひますので、今回の所管事務調査が一つのいい機会になるかなというふうに考えております。お互いに忌憚のない意見を交わせればと思ひておりますので、よろしくお願ひいたします。

○総務課防災交通室長（高野基哉君） 総務課防災交通室の高野です。

今日の所管事務調査では、防災ということでこちらのほうで執務を行っておりますので、私のほうから説明させていただければと思ひます。よろしくお願ひいたします。

○委員長（貳又聖規君） ありがとうございます。

本日は、各委員の皆様事前に資料を配付しております。今回、とても精度の高い資料を作成いただきました。選挙事務等もありつつ資料を作成頂いて、この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございます。

それでは、早速ではあります但し説明を求めます。

高野防災交通室長。

○総務課防災交通室長（高野基哉君） 津波避難の在り方ということで、こちらの画面と皆様の御手元にお配りしました資料で説明させていただきます。着座にて失礼いたします。

それでは津波避難の在り方について、防災交通室としての津波避難の在り方の今当町が抱えている課題といったところについて、改めて説明させていただければと思ひております。

資料の概要につきましては、1・2・3ということで大きな捉えの中で、まずは1番目に、津波避難の想定が、令和2年度、そして3年度で拡大化されているので、その概要を改めて説明させていただければと思ひます。そのあとに、津波避難の拡大化されたことによる現状の課題の説明をさせていただければと思ひております。そしてさらに、先日、町長タウンミーティングの中でも質疑等があった部分、そこを参考として、資料として説明させていただければと思ひております。

それでは1ページ目になります。まずは津波浸水想定の概要・経過の説明をさせていただきます。津波避難に関しては、日本海溝そして千島海溝沿いで、巨大地震の発生の恐れがあるために、国のほうで平成27年に検討会を立ち上げて、その後、令和2年4月に詳細な被害想定、防災対策を行うためのワーキンググループを国のほうで設置しております。

その事後の経過でございますが、令和2年4月に内閣府のほうから粗々ではございますが、地震モデル等の地図というか、浸水想定がされて、翌年の7月、そこで当町も入っておりますが、太平洋沿岸、ここの津波による新たな浸水想定が公表されております。その後10月に、津波災害警戒区域に当町の沿岸部が指定されていると。そして令和3年12月には、北海道のほうで津波の被害想定、人的被害等の想定が公表され、翌年、令和4年7月に白老町の津波の被害想定が公表されております。そして9月30日には、海溝型地震、津波対策特別強化地域の指定がされていると。そのような経過がございます。

次ページをお開きください。そこで想定されたものでございます。まず白老町の被害想定の中で、1番大きな津波が来るぞという震源域に関しましては、岩手県沖で巨大地震が発生したときに大きな津波が来るという想定がされて、災害想定につきましては、地震の震度が震度5弱、そして津波高が白老町の沿岸部においては、8.3メートルから9.2メートル、そして最大波、これは第一波になりますが、それが地震発生後39分で襲来すると想定されております。

次のページになります。被害想定でございます。(1)から(3)までございますが、まずは(1)死者数、これにつきましては、この中で言うと、一番冬の夕方に地震が発生した場合に白老町自体で避難の意識が低いというか、そのようにされており、プラス、呼びかけの避難、率先避難と言われるような「皆さん逃げてください」というような避難者がなかった場合には、8,700名の方が亡くなると想定されております。

そして(2)負傷者数でございます。あまり被害は想定されていないのですが、早期避難率が低くて、冬の深夜に130名の最大負傷者が発生するという想定でございます。

次に(3)浸水域における時間帯の人口につきましては、地震発生が昼の場合、浸水域人口は1万3,892名いるという想定が北海道でなされています。そしてこの被害想定を受けて白老町につきましても地震発生から約39分という想定がされていますので、その中で避難ができるような場所にいない方々、これを津波避難の困難地域として指定しております。その考え方を説明させていただきますと、まずは津波到達が地震発生から39分、そして避難開始までの時間13分と記載がございますが、ここにつきましては、東日本大震災での避難時間の報告書、被害の報告書というのがございまして、そこでの平均避難時間が13分と示されている報告書がございますので、そこから差し引いて、大体白老町の場合は26分以内に避難ができるような、避難場所があればいいということになります。26分以内の歩行速度、ここに関しましても東日本大震災の報告書がありますので、その平均歩行速度が出ております。これは成人男性というか成人から高齢者まで統計をとって平均値になります。それを掛けると大体約1キロメートルが26分以内に逃げられる歩行距離です。避難施設、避難ビルがないような地域を算出した中で、白老町においては6地区そのような地域があると。このように指定しております。その地域が

どこかといいますと、まずは表の上のほうから社台地区、対象者は令和6年度現在になります  
が450名。社台地区の人口の割合からいうと大体65.5%、半数以上の方が津波避難困難地域に住  
まわれていることになります。そして白老地区、大町になります。900名、人口割でいうと14.2%。  
石山地区、消防の前の団地になります。約90名で10%。萩野地区、鉄南地域一帯になります  
が、180名、8.7%。北吉原地区、前浜のほうで580名、36.6%。竹浦地区、温泉区になります  
が、対象者数が60名で3.8%、合計で2,260名の方の地域で、近くに津波避難タワーまたは避難ビル、  
緊急避難場所が歩行距離圏内にない地域として点在してしまっていて、当町の場合は、高いビルな  
どがないのでなかなかそのような指定ができない現状になっております。

それでは、1地区ごとに説明をさせていただきます。繰り返しになろうかと思いますが、ま  
ずは社台地区、ここは450名で主な緊急避難場所が社台墓地となります。図面の中でいうと緑色  
になっている部分が社台生活館です。画面のほうを見ていただいたら分かりやすいと思うので  
すが、これ社台地区一帯になります。この津波避難困難地域というのが、鉄道から南側の地  
域ほとんど、駅前から昔のセブンイレブンがあった地域、その辺りほとんどが津波避難困難地  
域ということで、ここから社台墓地に逃げるには2方向です。駅前の横の踏切もしくは社台神  
社の横の踏切です。そこを通過して避難しなければならない地域になります。

次に白老地区、大町になります。ちょうど真ん中に白老駅と付しているところがあるの  
ですが、これは大町大体一帯です。ここも津波避難困難地域で、避難場所が北海道栄高校の坂、  
今年になって締結をさせていただきましたホテルリブマックスリゾートウポポイ白老温泉です。  
そこが1番近い避難場所かなと思っております。避難については役場前の踏切、白老駅の自由  
通路、あとはホテルリブマックスリゾートウポポイ白老温泉に行く。避難場所まで約1キロ  
メートル以上距離がある地域になります。

次に石山地区です。画面で言うと紫色の部分が国道になります。そして、ここに消防署があ  
るのですけれども、その目の前の港団地が避難困難地域になっていて、避難場所が萩の里公  
園になりますので、避難としては国道を渡って、消防の前の道路を渡ってこのように避難しな  
ければならない地域になります。

次に萩野地区、萩野大町につきましては180名で避難場所が萩野小学校しかなく、南側のほ  
とんどの地域が避難困難地域になっている。避難方法もこのように線路を渡って小学校のほ  
うに向かうといった避難になります。

そして北吉原地区、前浜の本町1区から6区です。ここにつきましても萩野地域と一緒に、  
南側の地域一帯で北吉原神社まで、踏切を渡って1キロ以上の避難をすることになります。

次に竹浦地区、少しばかり見づらいなのですが、温泉区の地域になります。ここにつきまし  
ては旧吉原薬局さんがあったすぐ裏の踏切を渡って、このように合田踏切裏山という私有地にな  
りますが、そこを避難場所に指定させていただいているというような6地区の現状になります。

この場所にどのような事業をしたらいいのかということで、今全国的に津波避難対策として  
言われているのが、上から、津波避難タワー、これは北海道においても道東、釧路町や白糠町  
の辺りで事業化されていて、もう避難タワーとして稼働しているような状況になります。現

状でいうと収容人員が400名から450名、高さとして10メートルぐらいで、寒冷地仕様にした場合については、事業費は10億円程度かかるのではないかなという試算がされております。

ここでの問題点、あのような近くに避難する施設があるのがいいのですけれども、やはり10メートルぐらいの高さに居室、部屋をつくってしまうので、そのようなところの日常利用がなかなかないのではないかと疑問視されていると。

次に、避難艇と言われる、買って存置すれば、そこに置いておけばすぐ皆さんが避難できるというものになりますが、大体収容人員が25名で、1艇当たり2,000万円ぐらいかかると言われております。ここにつきましては、高齢の方やお子さんが置いておけばすぐ逃げることができるので、タワーとは違って高低差のない避難ができるのかなと思っております。ただ、避難タワーと同様に日常的な使い方がなかなかないような状況がございますが、先日、氏家議員からも質問があつて、氏家議員も日本海のほうへ視察に行かれて、そこでは各保育園に置いて子供の遊び場的な利用をしている自治体も中にはあるようですが、例えば地区に置いた場合には、なかなかそのようなことはできない状況ではないかと思っております。

最後になりますが築山整備ということで、上の面積を例えば500平方メートル、高さ8メートル、大体500人が逃げられる施設を事業化した場合、事業費としては数億円程度かかると言われております。北海道ではまだこの築山を整備している事例がない状況で、この数億円というのは、本州で東日本大震災の後にすぐ整備しており、10年以上前なのでそのときで山をつくるだけで大体2億円から3億円程度と言われていて、現状資材の高騰や人件費の高騰というがあるので、なかなか今どれぐらいかかるかということが算出できないのかなと思っております。

例えばこの整備をした場合、問題点としては屋外避難になってしまうので、冬季の避難の対策はどのようにとるのかという問題は一つ出てくるのかなと思っております。そのほかに、日常使いは遊歩道と公園的な整備をすれば、一般の方でもあってもいろいろなことができるのではないかと。そのような事業が全国の中では展開されている状況であります。

それでは、(2)になります。問題点でいうと、屋外の避難場所、白老町の場合、鉄北地域に自然地を利用した避難場所を指定している状況になります。ただ、自然地の高台や林道的なところを指定しているので、ここに書いております社台墓地、ヨコストの高台、竹浦コミセンの裏山、合田踏切裏山、紺野踏切裏山、そして虎杖浜駅の裏側という6地区に関しては、なかなか避難道、あとは避難場所の整備というのが森の中にあると言ったらちょっとおかしいのですが、林の中にあるというところで、町としても草刈りを2年前から年2回にしているのですが、なかなかいい状況ではないのかなと、環境整備についてはうまくいっていない状況かなと思っております。そのほかの問題点になりますが、よく線路横断についていろいろ報道でも取りざたされていると思うのですが、当町の線路横断について、資料では白老を例にとらせていただいたのですが、赤く色がついているところが津波の浸水想定区域になります。図面の真ん中の黒点線というか、ここはJR線になります。JR線からかなり北側のほうまで浸水している状況というのがうかがえて、白老地区であれば本当に、白老小学校のグラウンドぐらいまで津波が来ると想定されているので、実は大部分が浸水想定区域であります。緑丘の一部の地域が浸

水想定区域外ということで、白老町の大半の部分が浸水想定区域となります。社台、白老、萩野、北吉原、竹浦、虎杖浜、各地区でこのように線路を横断してもなかなかすぐ避難場所や浸水想定区域外という場所がないので、現状では踏切以外の線路を横断することによって、すぐ避難地があるところがないという状況であります。そして、地形的な高低差というのが当町の場合はないので、どうしてもこのような状況になってしまうのかなと思っております。

次に、(3)の問題点として、先ほどの自然地を利用している部分があって、萩野から虎杖浜地区の地域の避難場所というのが、どうしても避難場所に到達するまで、もしくは避難場所のところが土砂災害警戒区域に指定されている状況です。当町で想定されているのが最大震度5弱の地震です。それが起こった場合にもしかしたら、避難経路が崩れてしまってどうしても避難ができない状況が生まれるのではないかと。そのような場所が当町には約5か所ございまして、竹浦コミセンの裏山、萩の里公園、そして竹浦、虎杖浜方面でいくと裏通りの3か所が土砂災害警戒区域に指定されております。防災のほうでもここの整備がどうにかならないかということで北海道にも補助対象というか、そのような事業でできないか問合せをした経過があるのですが、まずそこは土砂災害警戒区域だろうという回答が返ってきて、土砂災害が発生しないような事業の後に避難路整備等をするのであれば補助対象になるかもしれないが、その経路の1部分を例えばコンクリート壁というかそのようなもので整備したとて、山沿い全部だとしたら横が崩れたらその部分も崩れるというか、例えば萩の里公園でいうと、この公園の法面というか坂道の全部をコンクリート壁で覆うことがもしできるのであれば、もちろん避難路整備は大丈夫というか補助対象であるという回答が来ているので、となるとかなり大きな事業というか、とんでもない事業費がかかってしまうということがあって、土砂災害警戒区域の部分でほかの避難場所が、あとは迂回路等があればいいのですが、なかなかそのような施策がこの山間の部分ではとれていない状況でございます。

まとめとして、まずは津波避難困難地域の方々約2,300名の方々に対する事業、対策をどうしようか、避難対策をどうしようかという部分と、高台避難場所、ここは自然環境を利用した部分であって、鬱蒼とした部分というか、草刈りも含めたそのようなきれいな避難場所というか、逃げてみてもすぐ、過ごしやすいついたらおかしいのですが、2、3日でもきちんと避難ができるような対策をとるにはどうしたらいいか。そして土砂災害警戒区域になっているところが多いので、そのような部分が現状の津波に対する大きな課題でございます。

最後に3の部分でございますが、先日の町長タウンミーティングでの質疑をご紹介させていただければと思います。あくまで津波避難対策の部分の質疑を抽出させていただきました。読み上げさせていただきます。地震、津波の避難については、白老の北側に丘陵地があるので活用すべきであります。また、避難場所まで到着するにも避難路が狭い箇所の整備及び高齢者等がところどころに一定のスペース、要は休憩場所です。避難をしながら休憩できるようなスペースを設けて整備していただきたいということで、この方は石山の方で、萩の里公園が最終的な避難場所になっているので、そのようなスペース的なところや、本当に狭い林道というか遊歩道なので、そこを整備してくれないかというご意見がございました。

次に、竹浦神社の避難場所について、神社のぎりぎりまで津波が来ると想定されている。想定以上の津波が到達した場合は、避難場所が浸水するので不安である。ほかの場所、竹浦神社の横にバス停があるのですが、そこも避難場所に指定しているので竹浦バス停など高速道路に上がれる場所もあるので、竹浦神社裏の斜面を何か整備して高速道路に上がれるようにしてくれないかというようなご意見もございました。

最後に、津波避難対策の部分で、先ほどの津波避難タワー、避難艇、築山の3種類、町長のタウンミーティングでもご紹介させていただいた部分があって、町長から参加された方にどのような施設がいいですかと逆に質問して頂いた意見でございます。津波避難対策はいろいろとあるが、社台地区のように北側の高速道路のほうまで平坦な場所については、何らかの避難施設を整備して対応すべきだと思う。また、事業費などが高いが築山整備であれば、公共残土などがあるので費用が抑えられるのではないかという意見もございました。

津波対策の在り方についての説明を終了させていただきます。

○委員長（貳又聖規君） 説明ありがとうございました。

それでは、各委員の皆さんから質疑を賜りたいと思います。

長谷川委員。

○委員（長谷川かおり君） 先ほど、土砂災害の地域を整備するのであれば、国からの補助、これから津波対策をするのにそれを出すのは可能ではないよという回答があったということですが、この土砂対策を行うということは、やはり全部町費で賄うということでしょうか。

○委員長（貳又聖規君） 高野防災交通室長。

○総務課防災交通室長（高野基哉君） 経過として、社会資本整備総合交付金というハード事業に対する補助メニューの中で避難場所の整備という事業があって、北海道に質問させていただいたときに、まずは土砂災害警戒区域の対策事業をした後に避難路整備をしないと事業対象にはならないという答えが返ってきております。

もしかしたら、社会資本整備総合交付金以外の補助金の活用があるのかもしれないのですが、現状のところなかなか見いだせていないようなところがあって、仮に町として土砂災害警戒区域に対して整備をすとなれば、現状のところ長谷川委員がおっしゃるように、恐らく今のところ町費で賄うことしかできないのではないかと。もしかしたら、緊急防災減災事業債というのが使える可能性はあるのですが、そのようなときも恐らく崩れないような施策というところが問題になってくるかと思うので、となると莫大な事業費になるのではないかと推測されます。

○委員長（貳又聖規君） ほか、あります方はどうぞ。

築山整備の関係とか何かございませんか。

森山副委員長。

○副委員長（森山秀晃君） まず資料作成ありがとうございました。これすごくしっかりして、いろいろと調べた上で作っていただいているので、質問もなかなか、もう答えが出ているといえますか、やはり、ここの部分はこうしたほうがいいのだけれど、ただそこにはこのような障害があってということでしたらしっかり作り込んで頂いているので、今説明を受けた限りでは、八方

塞がり感も若干否めないのかなというところではあるのですけれども、あとは自然を使った整備というところは、今のお話の中で土砂災害の関係もありますし、各地域につくるというのはなかなか難しいのかなと感じたところです。

そうすると今度は、先ほど出ていた避難タワー、避難艇を各エリア、それこそ今その避難するビルみたいな高い場所がないエリアの6地区に関しては、そのようなものを用意しないといけないのかと思うのですけれども、今後、これもまた細かく数字の部分やどのような補助メニューを使えるのかということも検討した上で決めていくことになると思うのですけれども、現状では、例えば社台から地区ごとに、1地区ごとにそれぞれ避難艇なのか避難タワーなのかを選んで用意していく形になるのか。それとも、現状6地区には1キロメートル圏内に避難する場所がないという状況で、6地区全部に一気にどんと避難タワーなのか避難艇なのか、どちらか決めた段階で一気につくるのかというところの想定は今どようになっているのか伺います。

○委員長（貳又聖規君） 鈴木総務財政部長。

○総務財政部長（鈴木徳子君） 今後の町の整備の方向性かなというふうに思います。今ある6地区、それぞれの地区の性格というか形状などそれぞれの個別対応が必要だと思っているので、6か所全部に例えばタワー、6か所全部に避難艇ということではなくて、地域単位でどのような避難施設の整備がいいかという考え方で進めていこうと考えております。現段階で町としてまず先に手をつけようと思っているのは、皆様もずっとご心配されているとおり社台地区に関しては、本当に平たんな場所しかないのと、線路から社台墓地まで海側の方たちが逃げていくにはかなり困難な状況は重々理解しているので、ここの部分については、社台地区の皆様のご意見を伺いながら、町の方向性として皆様にお示しして進めていきたいと考えております。

この整備に関しては、町として緊急事業計画というものを策定することによって、国の補助メニューを活用した形で整備を進めていくことができるものですから、ここは地域の方たちの合意も得ながら段階的に。ただ、それほどんびりと進めるつもりはなくて、早い段階で進めようということで今検討しているところでございます。

○委員長（貳又聖規君） 早いところで進めると、検討と言っていますけれども、年内に何かこう動きが出るのであればその辺のスケジュール感をお示し頂けますか。

○総務財政部長（鈴木徳子君） 今8月、9月ぐらいに社台地区の方たちと、この間も町長のタウンミーティングの中でも、例えば避難施設3施設ありますけれども、どのようなのがいいでしょうかと、ご意見をざっくばらんに頂いたら、お金があるのなら三つとも全部つけたほうがいいよねとおっしゃる町民の方もいらっしゃいました。

ただ、やはり優先順位のつけ方などもきっとあると思うのでということで、社台についてはそこに参加された方たちもご理解されているかなと思っておりました。8月、9月ぐらいで社台の方たちと意見を交換させていただいて、その意見も踏まえて我々としてこのような避難施設の整備を進めていきたいという案をある程度固めていきまして、その上で必要な手続というのが今後議会においても予算を頂くなど必要になるということは想定されておりますので、そこを令和7年度中の取組として進めていきまして、緊急事業計画の策定に着手して、仮にうま

く緊急事業計画の採択がされれば、その事業着手自体は令和9年以降でと考えておりますので、今そのようなあらあらのスケジュール感で進めていければと予定を立てております。

○委員長（貳又聖規君） 先ほどの説明、スライドで5ページです。森山副委員長の質問からいくと、6地区、社台から竹浦まであります。その地区の対象人口比率65.5%ということで、優先度が1番高い社台地区にまず着手するのだと。そのような解釈でよろしいですか。

鈴木総務財政部長。

○総務財政部長（鈴木徳子君） そのとおりです。1番優先度が高いということ、それから本当に旧社台小学校以外建物自体が海沿いにはないという部分を鑑みまして、まず社台からという優先順位をつけております。

○委員長（貳又聖規君） ほか、ございます方はどうぞ。

長谷川委員。

○委員（長谷川かおり君） 2回目になりますけれども、先ほどタワーと避難艇と築山、メリットデメリットありましたけれども、築山が現状いろいろなものが値上がりしているから幾らになるか分からないと言っていましたけれども、維持管理費の説明がなかったので、タワーと避難艇と築山に関して、維持管理する場合や寿命など、そのようなところを分かっている段階でいいのでお聞かせ願えますか。わからないですか。町民説明すると言ったらそのようなところも大事です。しっかりと根拠をもって説明するという。

○委員長（貳又聖規君） 説明できるところまででいいですよ。

鈴木総務財政部長。

○総務財政部長（鈴木徳子君） 根拠が必要だと、おっしゃるとおりではあります。基本的にランニングコストに関しては、例えば津波避難タワーであれば、どういうものをつくるかにもよりますが、本当に逃げるだけの状態で、いざというときに自家発電ができてというようなイメージでいくのかというものにもよりますので、どういうものを想定するか。今この絵で示しているものと多分ランニングコストは結構かかるかなど。現状維持するのと定期的な点検などを含めて必要になります。避難艇に関しては、置いておくので、例えば仮に保育園に置いたとしたら、きれいにしてもらうのは子供たちにやってもらうとしても、仮にGPSが付いた避難艇になるのであれば定期点検がかかるので、一定限ランニングコストがかかると思います。築山整備については、これは先ほども話したとおり、寒冷地の仕様というのが分からない。北海道で初めてになるので積算資料がないのです。設計図もどこにお願いするかが分からないのですが、これは階段で上がっていくことになっているのですが、仮に平時は遊歩道で有事は車も含めて上がれるような、ぐるぐる回るようなとなると、冬を考えるとロードヒーティングしなければいけないランニングコストと、あと、維持補修、定期的に舗装含めての管理というのはかかってくるので、それが何百万円単位なのか、何十万円単位なのかということまでの積算はしていないので、ただそういうことはかかるだろうという想定はしてはありました。

○委員長（貳又聖規君） ほかの委員からございますか。

前田委員。

○委員（前田博之君） せっかくなのでこれだけ委員長に聞くのですが、今日は津波避難対策の在り方で、ハードの部分だけの議論ですか。

○委員長（貳又聖規君） 今回はハードだけではございません。どうぞ忌憚なくご意見というか、質問してください。

前田委員。

○委員（前田博之君） 2点あるのですが、まず1点、具体的にお聞きしますけど、JRの線路がある。その横断が、高野防災交通室長も知っていると思うけれど、僕も何年か前に議会で質問していて明確な答弁なくて、最近の新聞報道によると、この沿線、JRと話がついたというのだけれど、具体的に今白老でも、計算すると40分前後ぐらいかな、列車が走っています。今特急が止まるようになったから。そうすると、過去、特急が止まる前だったらある程度時間差があった。今これぐらいの時間間隔で電車が走っていますから、もし朝晩で、24時間のうちに列車が社台から虎杖浜までの地域で踏切のどこかに止まったときに、新聞報道では協議しているとなっているのだけれど、具体的にどこまで話して、具体的にその事態にあったときにどのような手法というか手段によって踏切を開けられるのかなど、どこまで話が進んでいるのか。これ、非常に大事なのです。今日の資料でもほとんどJRが障害になっています。その辺まず1点お聞きします。

○委員長（貳又聖規君） 高野防災交通室長。

○総務課防災交通室長（高野基哉君） 踏切の避難、踏切と線路の横断を含めたご質問かと思うのですが、まず踏切の避難については、当町とJRの協議は実際にはしていません。というのは、踏切避難についてはまずは列車がどこに止まるかは、実際のところ運転士に任せているという答えがJRから返ってきているので、もしかしたら踏切のど真ん中に列車が止まってしまう可能性も否めないようなので、あくまで地震など災害のときには運転士の判断で止まってしまうという回答しかありません。ただ、踏切の避難については、歩行者が道路交通法上でいうと普通に通れると。ただ車両だけは駄目だと。踏切は遮断機がおりているのであれば、JR側の回答の中では、胆振東部地震のときに当町でも、この辺り帯なので、遮断機が降りてしまったという状況は、あくまでバッテリーの故障によって、JR側の不備によって踏切が閉じてしまったという回答があります。なので、今は維持管理をしているので、仮に津波避難や地震があったとしても、遮断機は列車が近づかない限り降りないという答えがあるので、苫小牧などでは普通に踏切を避難経路として想定している状況もありますので、実際に白老町とJRでということにはしていません。

線路横断に関しても、登別市や室蘭市は結構率先的に、線路横断のどこで通ります、通しますという具体的な話があるのですが、そこに関してもあくまで津波避難困難地域の方々を逃がすために特例的にいいという回答なのです。ですので、先ほどの説明でもあるように、当町では津波避難困難地域の方が線路を横断すると目の前に高い建物があったり、避難浸水想定区域外になるようなところがなかなか今見いだせていない状況なので、そこについてもJR側にはまだ協議というか、例えば線路を横断して目の前に高台があってというような、歩行距離

1キロメートル圏内にそのようなところが線路を横断することによってあるのであればいいのですが、なかなかないような状況というのが今私たちの判断であります。

○委員長（貳又聖規君） 前田委員。

○委員（前田博之君） これ議論しても仕方がないのだけれど、電車を止めるのは運転士に任されているのだけれど、踏切のところでは止まったらジョイントを誰かいないから外せない。そのような想定を議論しても無意味だからしないのだけれど。歩行者だけだったら列車の下に潜って行くことはできるのですか。誰かがついて誘導すればいいわけ。運転士と町の人が話をして、必ず、今こうだから動かないでくださいと。そして、安全確認して誘導するなどそのようなことができるのですか。

○委員長（貳又聖規君） 高野防災交通室長。

○総務課防災交通室長（高野基哉君） 具体的にできる、できない場合は、恐らく災害のときはできるという判断かなと思っています。ただそれも、例えば町が間に入るというよりは、歩行される方が自分で安全管理をして。どうしても町職員が災害のときに各踏切などにつくということはできないので、基本的に逃げる方の判断によってそのような行為はオーケーですよという形だと思っています。

○委員長（貳又聖規君） 前田委員。

○委員（前田博之君） もし今その歩行者の事実であれば、やはり、どのようにJRと協定、あるいは責任問題があるのだけれども、今事実とした部分があるようであれば、逆にそのようなことの周知を町民にしておかないと分らないのではないですか。

逆に極端な言い方すると、町立病院はあるのだけれど、ある種、踏切はあるのだけれど、車では行けないからとか、列車が危ないからと潜ってウポポイの2階に逃げるときに、いや潜っていいのかわからないと、そこで極端な話、人はストップするわけですね。そのような周知というのは、ハードの充実もいいのだけれど、そのような小さなことが命を救うことになるのではないのかな。どうですか。

○委員長（貳又聖規君） 高野防災交通室長。

○総務課防災交通室長（高野基哉君） 分かりました。その辺りは今頂いた意見を参考に、どのような周知がいいか担当の方でもんで、分かりやすいような、そのようなことでちゃんと逃げられるよという周知の方法を考えて発信したいと思います。ありがとうございます。

あと、ウポポイの2階ですけれど、あそこは避難場所ではなくて、お断りされているような状況があって、坂の上の慰霊施設だったらいいよということなのです。町としてもアプローチはしたのですが、なかなかそこはうまくいっていませんので、付け加えておきます。

○委員長（貳又聖規君） 暫時休憩いたします。

休憩 午後 1時58分

---

再開 午後 1時58分

○委員長（貳又聖規君） 休憩を閉じ会議を再開いたします。

前田委員。

○委員（前田博之君） 私はこういう言葉のしゃべり方だから、職員一生懸命やってくれて、もう何というか褒めて、こうだということ言えないものだから変に誤解しないでください。

それでハード面については正直な話、このように書類や図面などである程度対応はできているのです。今日の資料を見ても、避難的なものはハードの面で、あとお金をかければどうかという問題だけなのです。ただ、これまでも議論されている問題提起なのですが、このハード面ばかり言うのだけれど、現実には災害といったらソフトの面なのです。極端な話、今まで説明あった部分の運用や、実際に誘導などあるいは災害本部を設置する。あれは津波になったら災害本部つくっても職員だってこられないのです。正直な話。そうですよね。

災害になったら、竹浦なら竹浦に避難、虎杖浜は虎杖浜公民館に決まっているけれど、そこに行ける職員がいるのか。いなければ誰が行くかということになる。そして今言ったようにハードの面で誘導する場合に、責任者が出てこないのですよ。社台地区は町の職員は誰がいるか。町内会も正直な話、うちの町内会でもはっきり言うけれど、議論はしています。うちの町内は白老小学校が近いからいいのですよ。すぐに行ける、10分、15分で行くから。

だけど皆さん協力するのも、皆さんに聞いたら言葉はいいのです。しますと。僕は隣にいる人を、自分は緊急でしょ。自分だけ行かなければいけないときにこの人までやらなかったら、あなたの責任となるでしょ。そのような部分あるのです。多分ある、何言いたいかと言ったら、そのようにソフト面の充実を、逆に先にちゃんと議論しないと、このソフト面はいいこと言えば確かにそうだと思うけれど、実際運用する誘導などいろいろな部分。今はいっぱいあるけど言わないけど、やはり直面したときの地域での体制なり、そのようなことをどうするかということが僕は優先だと思うのです。いや、ハードは先なのだけれど、そのようなことなのです。それで先ほども話したけど、部長も話したけど、過去にもそうなのだけれど、建物をこのようにして町民にやる以上は、これに関わるコストは幾らかかる、だからこうですと、だからできないなど、こうだということで、そこまで積み上げて町民説明や議会に資料を出してほしいと思います。要はその2点です。

○委員長（貳又聖規君） 鈴木総務財政部長。

○総務財政部長（鈴木徳子君） 今回、どちらかというハードに関する部分のご説明というか、現状の課題をお話しさせていただいておりますが、もちろんこのハード面を整備しても動かしていくのは人でありますので、そこについては、今回社台から着手していくというお話をさせていただいておりますが、このようなことをやっていく中で、地域の方たちをどう巻き込みながら合意形成を図り、ソフト面も充実させられるかということも次の肝かなと思っています。

職員に関する避難訓練というか防災訓練などに関しても、やはりちょっとずつ世代交代されてくる中で、いろいろ職員の理解の部分も心配な点は正直あるのです。それは私も実感しているところがあって、HUGも見直されたと聞いているので、ちょっと職員のそういう、職員向けの防災訓練など机上の訓練より実地が本当はいいのでしょうけれど、やはりリスク管理というか、イメージというか、何かそういうのは持ってもらえるようなことというのは、定期的に

やっついていかないとちょっと難しいなというのは実感している部分と、やはり町民の方たちいろいろな考え、いろいろな立場でいらっしゃると思いますので、おっしゃるとおりで、そのようなときに町職員は個々の役割で、例えば町内会の方たちはこういうことで、町民の皆さんはこういうことでというようなことはちゃんと周知していかなければいけないということもあわせてハード整備も考えながら、そこは進めていくつもりではあるのと、あと今回の資料の中でもうちょっと数値的な説明も含めてきちんとお示しできなかった部分については、今後再度改めて何とか積算できる方法はないか計算していきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

○委員長（貳又聖規君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 具体的に、もうここだから言わないけども、やはりソフトの面で今部長が言ったように、町が町民、職員がどのように対応するかというマニュアルをつくっておいで町自身が訓練しないと対応できないと思う。

言っていないかわからないけれど、過去に何年くらいになるかな、豪雨で災害本部をつくる、つukらないといったときに、もう僕が議員になってからだけれど、上と下で、おまえの課が災害本部だとかと、下が育っていないくてなかなかできなかったのです。それで職員が何をやるかというのがはっきりわからなかった、できなかった。それはやはり、これまでに経験がないからできないのです。言わせてもらえけれど、貳又委員長もそうだけれど、僕らいたときは、災害起きたときにもうすぐ本部立ち上がるのです。何々課と言ったら、はい、君は社台のあそこ行ってやってくれと。もうすぐに指示出していただけだけれど今はないから。その分、多分戸惑うと思うのです。だからやはり担当のほうでも、部長が先頭になって職員のそのような災害本部をやって、どういうことをやるというマニュアルをつくって、あるいは虎杖浜、竹浦、社台など白老、誰が、どの課長が。白老に、本部に1回来られなくても、そのようなものを逆に、今言ったようにどこにタワーつくったとかというのも必要だけれど、逆に運用するソフトの部分をもっと足元を固めることが大事ではないかと思うのですけれど、部長どうですか。

○委員長（貳又聖規君） 鈴木総務財政部長。

○総務財政部長（鈴木徳子君） うちに赤いファイルがありまして、その中にたくさん入っていて、実は連絡本部、警戒本部、災害本部を立ち上げたときの、一次、二次、三次とある状況になっていますので、実際、例えばですけれど、竹浦で避難所を開けるとなったら、どこどこの課が、職員が既にそこに行って、鍵も何もどこに何があるという状況で、防災交通室と連絡を取りながら対応するということは、実はきちんとマニュアル化はされていますが、マニュアルの中身をできるかというところだと思うので、ご指摘頂いているところはそのとおりという部分もありますので、ここはハードだけではなく職員の育成も含めて、やはり緊急時に一番問われると思いますので、ここは喫緊で取り組んでまいりたいと思います。

○委員長（貳又聖規君） 佐藤委員。

○委員（佐藤雄大君） 佐藤です。13ページの屋外の津波避難場所についてですが、こちら、草刈りとか管理はされているのでしょうか。どなたかとかいうか、誰が担っているのかとかいうのを確認させていただきたいと思います。

○委員長（貳又聖規君） 高野防災交通室長。

○総務課防災交通室長（高野基哉君） 町では年2回、白老建設業協同組合にお願いして草刈り等を行っていただいている状況です。以前までは年1回だったのですけれど、町内会のご意思ある方にやっていただいているような部分も実際にはありました。ただ、今やはり町内会活動の高齢化というようなことで、なかなかいい動きに、だんだん停滞しているところもあって、そのバランスという部分も含めてうまくいっていないというか、年に2回の草刈りでは回数的にはちょっと足りないのかなとは思ってはいるのですけれど、正直そしたらずっとやっていくかっていう部分、あとは、今草刈りの問題ですが、以前からご意見を頂いている冬季の除雪についてもやはり懸念材料であると思っている状況です。

○委員長（貳又聖規君） 佐藤委員。

○委員（佐藤雄大君） 佐藤です。

ヨコストの高台だと思ってしまうのですが、白老東高校の生徒と一緒に避難訓練を秋にやったのですが、その時は道もあって進んでいけて、ここで避難できるかなと思ったのですが、先ほどおっしゃっていたとおり、冬季に行ったことは僕もないので、雪が積もったときにこのほかの場所もそうです。全部積もっていたときに、長靴履いていてもどこまで行けるのかなどと、そのようなことは確かに課題だと思うので、ではどのようにしたらいいのというのはちょっと思い浮かばないところもあるのですが、そこはやはり課題は多く残っていると思っています。

3年前に総務文教常任委員会で、前回は津波被害や災害のことを調査したときに現地調査もしているのですが、そのときも確か踏切、裏山だったかな、どこか虎杖浜ですね。このまま本当に行けるのここというような場所だったので、サインとかはあったとしても、何か本当に現実的にそこにみんなに逃げてこられるのかなというのはやはり課題だと思いますので、その点だけ意見というか、課題として捉えたほうがいいかなと思っております。

○委員長（貳又聖規君） 広地委員。

○委員（広地紀彰君） 各委員のお話も拝聴させていただきましたけれど、やはりハードは大変ですよ。今佐藤委員が御指摘のとおり、私も築山というイニシャルコストはそれほどかからないのかなと思ったけれど、多分冬期間二次被害が、恐らく前の人はずぶずぶで、なかなか前に進めないしとなったら、下手したら押し倒してしまったりして、二次被害が心配だと思ったり。あと津波避難タワーも、巨額の費用をかけてつくったとしても、その近くに住まわれている人はいいかもしれないけれど、いや何であのようなところにつくったのだといった問題や、あれどうしても3階建て以上の高さになるので、そこまで歩いていけないというお年寄りも相当数考えられるので、ハードによる災害対策というのは限界があるのかなと。

前田委員も指摘されていましたが、ソフト面をどのようにして考えていくかというのはこれから大変重要になってくると捉えています。

富山県の魚津市で、支え合いマップという避難の要支援者などを色分けしたマップをつくっているのですが、そのマップで、要は足が弱い方だとかは自動車で避難していいことになっているのです。健常者は基本的には原則みんな徒歩。ただし、要支援者とその支援をする方

だけは自動車オーケーにしているのです。やはりそのような優先順位のつけ方や、これ全部、車でオーケーにしてしまうと大渋滞が発生して、能登地震でも相当大変だったのです。陸前高田などはもう渋滞になってしまって逃げ切れなかった方もたくさんいるので、だから、やはりそのようなすみ分けや重点のつけ方も大事になってくるような捉えがありますが、ご見解を伺いたいと思います。

○委員長（貳又聖規君） 高野防災交通室長。

○総務課防災交通室長（高野基哉君） ソフト面の車避難や要支援者の避難だと思うのですが、今の避難計画の中でも、実際には避難困難地域や要支援者は車避難も可というようなニュアンスで計画を、それはここ数年とかではなくもう10年以上前からそうさせて頂いているのですけれど、それを公に発信するかとなると、逆に健常の方も、車避難だけが前のほうに行っているのかという話にもなるかと思うところもあるのです。今、車避難の方法の見直しということが、実際に東北では車の渋滞状況などを踏まえたり地域性を踏まえたりして、逆に車避難可にしている自治体が実際出てきている状況です。

むかわ町も線路が廃線になったりして、車避難はオーケーですというような方向性を示したりしているので、当町も例えば社台地域の鉄北の方々、あそこも実際に社台墓地まで行くとなるとかなりの距離を要すると思っております。牧場があってもどうしても迂回しなければならない。そのようなところでピンポイントであれば車避難オーケーです。例えば国道もなかったり、日常的な道路でも地域の方しか通らないというような状況が見えたりするので、そのような方々には率先的に発信できると思うので、津波避難の在り方ということで、ハード事業の部分もそうなのですが、実際に全体の避難計画には避難困難地域をうたっているのも、今後、各地域の避難計画をつくり上げていかなければならない状況であると思っております。そのようなときにこの地域の方だけは車避難でいいよとピンポイントに発信できると思っております。先ほどの8,700名の方を少しでも減らせるような対策を一つ一つとればと思っております。

○委員長（貳又聖規君） 広地委員。

○委員（広地紀彰君） 自助や共助の推進なんですよね。私がPTAのイベントの中で、安平町の消防職員の方からお話を聞いてびっくりしたのが、阪神淡路大震災のときに、推定3万5,000人ぐらいが生き埋めになったと。そのうち公助で、要は消防隊だとか公助で助けられた割合は2%にも満たない。9割以上は自助、自分か家族、そして共助、通りすがりの人や近所の人に救出されていて、その時点で救出された人たちの生存率もかなり高いのです。

実際に公助で救出された方も4,000人ぐらいいらっしゃるらしいのですが、そのうちの半数が亡くなったと聞いています。なので、本当に、どのように命を守っていくかということを考えたときに、町が果たすべき役割は大変大きいのですけれど、やはり地域の住民の人たちの自助と共助がこれだけ意味があるといったことから考えると、その辺りを例えば、宮城県の山元町は毎年1回車での避難訓練を実施しています。そのような形で、どういうふうにしたらこうなるかというその課題の抽出も含めた、そのような自助・共助の推進の在り方も必要な考え方ではないかと考えますが、最後に伺いたいと思います。

○委員長（貳又聖規君） 鈴木総務財政部長。

○総務財政部長（鈴木徳子君） それぞれの地域の特性等もありますので、そこも踏まえて、もちろん自助・共助・公助で公助が果たす役割も大きい部分で、そこは全体的に考えていかなければいけないということで、今回ハード整備も含めて課題があるということでお伝えさせていただいておりますが、やはり地域の中でどのようにお互い助け合えるかというところは、日頃のネットワークというか、そのようなものも重要であると思いますので、ここは地区単位でどのように我々も関わっていけるかというところありますが、どちらかというところ我々行政が主導するというよりは、どちらかというところそこを押し上げていくというか、町内というか町民の皆さんとどのようにしていこうかと一緒に考えていくというような取組を進めていくほうが今は大事なのではないかと考えています。それで意識啓発がされることで、少しずつそこが充実していけばいいと思っていますので、その部分についても、今回社台の方にはお話を聞くという場面を設けますけれども、そのような中においてもいろいろなご意見を頂きながら、地域をきちんと支えていけるような考え方を示せればと思っております。

○委員長（貳又聖規君） 最後に私のほうから。8月、9月に社台の住民の皆様への説明会を開催するという事ですけども、スライド番号12番を見せてほしいのですが、今3つのパターンを示しています。端的でよろしいので、言える範囲でいいのですが、社台の住民の皆様への説明会の段階で、お話を聞くというだけではなくて、町のほうからも一つ提案というか、考え方を示すのかと思うのですが、その中で例えばこの3つのうちこのような方向性で考えていますというようなことは出てきますか。

鈴木総務財政部長。

○総務財政部長（鈴木徳子君） 社台の方たちのご意見を聞くに当たって、何も無い中では思っていない状況ではあります。今、我々が社台の方たちに提示する考えとしては、築山の整備で進められないか考えていきたいと思っておりますので、この辺について社台の方たちからご意見を聞きたいと思っております。

○委員長（貳又聖規君） それでは最後に私のほうから確認ですが、その中で、まずはその優先度が高い社台において、いま一つの提案をする、築山という提案をするときに、旧社台小学校、この築山を整備するに当たり、取壊しだとかそのような可能性も想定されるのかと思ったのであえて質問させていただくのですが、そのあたりはどうですか。例えば旧社台小学校に手はつかないのかどうか。その辺りまで説明しますか。

鈴木総務財政部長。

○総務財政部長（鈴木徳子君） 社台小学校をどうするこうするという話まで行くかどうかの前段で、築山整備するに当たって、旧社台小学校の活用という部分は多分その前の段階で、別の段階で、社台地域の方からの要望はあったかと思いますが、旧社台小学校に例えば避難タワーをすりつけるということも検討した中ではなかなか難しい。校舎が潰れてしまうのと3階以上に避難タワーということもありますので、そういうあたりも踏まえて地域の方にご説明する中で、旧社台小学校を残してくれという要望などもこれまでもあったかと思っておりますので、この

辺は社台地区の方のご意見も聞いた上で、旧社台小学校までふれた形での築山整備になるかどうかというのは最終的に町として考えて決めていきたいと思っております。

○委員長（貳又聖規君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 社台地区のいろいろな提案などが出ているけれど、過去に高速道路を一時避難にという話があったのです。社台墓地の手前ですね、高速道路は。そのような部分についての話は消えてしまっているのかな、今の築山みたいに屋外避難であるため冬期の避難の対策が必要云々と、この中にどのような施設ができるかは別にして、ただ避難地は、発想からいくとそれほどお金かけるなどという言葉を使ったら語弊あるから、その費用は別にして、緊急避難的にはそのようなものも、国のほうですからある程度施設も若干、手直し許可があればしてもいいと思うのだけれど、そのような部分について行政側としての捉え方がどうなのか。費用対効果など、あるいは避難場所としての効果も含めて、その辺、現状でうなっているのか。

○委員長（貳又聖規君） 鈴木総務財政部長。

○総務財政部長（鈴木徳子君） 築山整備は旧社台小学校の辺りをイメージしています。ただ、逆に社台墓地のほうに逃げる方たちに旧社台小学校のほうに向かって逃げてくださいというのは、津波に向かって逃げてくださいということになりますので、それはやってはいけないことだと思うので、社台墓地よりもっと奥に逃げたほうがいい部分もこの築山整備とあわせて、鉄南・鉄北での避難の在り方というのは社台地域でも変わるかなとは思っているのですが、そこも念頭に入れながら対応していきたいと考えています。

○委員長（貳又聖規君） それでは、一通りいろいろとお話頂きました。説明員の皆様、本日は貴重なお時間どうもありがとうございました。

暫時休憩いたします。

休憩 午後 2時23分

---

再開 午後 2時25分

○委員長（貳又聖規君） 休憩を閉じ会議を再開いたします。

本日の次第の2の分科会にも関係するので皆様にお諮りしたいことがあるのですが、まず、本日、所管事務調査でいろいろ担当からご説明頂きました。その中において、今、社台の優先度が1番高いということで、8月か9月に社台の住民の皆様へ説明会を行うと。先ほど私からも確認しましたが、その中では町の方向性として築山整備ということも一つ提案するというところでございました。

その中で、この2番目の分科会ということで、今これは委員長の私の案であります、町が8月か9月に社台の住民の皆様へ説明を行う。その中で築山のお話があったときに、旧社台小学校は壊さなければならないというようなことも先ほどもちょっと含んで示されております。そこで、分科会については、8月、9月、町の説明を終えた後に社台の住民の皆様と意見交換、分科会をしてはどうかというのが私の案でございます。そうすると、この所管事務調査は3か月間の予定であります、3か月延ばして最終的な委員会報告を12月にいたしたいという思い

があります。この6か月間のイメージとしましては、まず8月か9月に町が説明をする。その後、社台地区の皆様との分科会を経て、そして、町がどのような方向性を示すか分かりませんが、仮に築山整備といった方向性が示されるのであれば、我々も専門家を招聘するようなことで、築山整備の在り方といったことを研究するのも一つかなというふうに考えております。専門家については、町でそのようなアドバイザーを呼べるような機会があるそうです。この12月までの期間中です。ですので、流れとしましては、我々も分科会を行い、その後、白老町に会う整備の在り方みたいなもの研究を深めて、そして、最終的な政策提言まで持っていったらどうかというのが私の案でございます。

分科会の相手を社台の住民の方にしたいということと、このスケジュール感について、皆様のご意見を頂きたいと思っております。

前田博之委員。

○委員（前田博之君） 本当は僕、最初にしゃべりたくないのだけど。若い人が積極的に考え方を示してほしいのだけど黙っていても仕方ないから言うのだけれど。今委員長が言ったのはわかるのだけど、防災、災害、大きな問題です。これ町や行政だけの問題でなく、行政も議会も一つとなって対処しなければいけない大きな問題だと思うのです。

委員長の考えもいいのだけれど、僕は、町が社台で懇談会を開いて、後で議会が開いて、町がこう言ったから議会はどうかというより、何を言いたいかといったら、逆にこれ、先進的、先例というかな、一つの開拓的な考え方で、町とこの委員会と一緒に懇談会みたいに合同で開いて意見を聞くと、議会と町挙げて社台に来てくれているのだなということ、仮に町は町で言っても、議会は議会でこういう考えもあるのではないかと。議員ですから、そのようなことで議論とまでは言わないけれど、これは調整が大事だけれども、そのような開催も面白い、面白いという言葉はいい、悪いはあるけれど、そのような開催の仕方も一つの議会の在り方としていいのかなと思ったのだけれど、皆さんどうかと思うのですが。

○委員長（貳又聖規君） 皆さんどうですか。今、前田委員から、要は町が8月、9月に考えている説明会に我々も一緒に入り、行政と議会、それから住民の皆様との説明懇談会というようなイメージですかね、今、前田委員のほうからそのようなご提言がありました。そのような感じでよろしいですか。いかがでしょうか。

長谷川かおり委員。

○委員（長谷川かおり君） 私これに対していい、悪いはまだ考えとしてはないのですが、町民の立場にしたら、町からの説明、そしてまた議会からも懇談したい。そしたら町民の方が負担かかるのではないですか。そのようなことを考えたら、一緒にやることも可能かなとは思いますが、そのやり方はまたちょっと考えなければならないのかと思います。

議員としての立場、町側の立場、町民としての立場という、議員は町民の代表という立場もありますから、そのようなどちらかという町民よりの考えで意見を発言する形になると思うのですが、そのような形が出ていって、行政側がいいのかなという懸念はあります。

ただ町民の意思は、私も前に登別でいろいろ仕事をしているときに、そういう意見、いろい

ろなところで町民を交えての意見交換会のときに言われましたので。

○委員長（貳又聖規君） 長谷川委員から私の案に対して、前田委員の意見も踏まえて頂いたご意見、私も本当ごもっともで、やはり町民ファーストで考えたときには、町民の皆様のお立場で考えたときには、1回も2回もこうやるのではなくて、そこに我々も一緒に入りながらやるというのは、これはとてもいいのかなと感じました。いかがでしょうか。

広地紀彰委員。

○委員（広地紀彰君） 町が大型事業を控えているという契機もありますので、まず委員長提案のとおり所管を延長してより議論を深めながら、しっかりとした意見をつくっていくということには賛同します。

あと、委員長及び前田委員からお話あった部分なのですけれど、町側とのすり合わせが必要だと思います。町側は多分説明会というイメージですし、私たちは懇談会というイメージですので、その辺りの整理がつくのであれば町民負担は避けられるのは、確かに長谷川委員のおっしゃるとおりかなと思います。

あとは専門家を呼ぶタイミング、町の説明会も8月、9月で暇がないので、ちょっとその前には難しいと思います。できれば私たちも見識をある程度広げてから向かうのもいいのかと思ったのですが、スケジュール感から考えたら、最終的には町の説明のタイミングを見ながら共通理解を図ってやっていくと。12月に報告に向けて専門家にも研修させていただくという流れでいいのかなと。私も決定はしていないのですが、そういう印象で捉えました。

○委員長（貳又聖規君） 佐藤雄大委員。

○委員（佐藤雄大君） こちらのほうがいいというのは、考えたのですがなかなか難しく。ただ、どういう形であれ、その説明も聞いたほうがいいかなという気はします。行政から町民に対する説明を、僕らも把握した上で懇談会をやるというのはいいと思います。ただそれが同日にやるのがいいのかどうかというところは、正直まだ分からない状況です。

専門家のお話もありましたけれど、この説明を受けて自分たちもどのようなものがあるのかということを理解した上で懇談するという流れも確かに必要かと思うので、何かこううまい折衷案があればいいかと思うのですが、まだ思いついていない感じです。

○委員長（貳又聖規君） 委員の皆様から本当に貴重な御意見頂きました。

それではまず、決定をしたいのは、調査期間につきましては、12月までということにさせていただきます。

そして、今どのようにこの町民説明会、懇談会を進めていくかというのは、正副委員長と町のほうともすり合わせをしながら、よりよい中身にしながら、また皆様のほうにご提案させていただきます。

まず、それでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（貳又聖規君） それでは、次第の最後、その他、次回の開催について、事務局からお願いいたします。

本間事務局長。

○局長（本間弘樹君） 特に案はございません。

○委員長（貳又聖規君） 次回開催が、もしかしたら町と一緒に言う説明会ということになる  
かもしれませんけれども、大丈夫でしょうか。そのようなイメージで。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（貳又聖規君） それでは、本日一通り次第、議事進行させていただきました。貴重なお時間本当にありがとうございました。

---

◎閉会の宣告

○委員長（貳又聖規君） これをもって、総務文教常任委員会を閉会いたします。

（午後 2時35分）